第２章　河北町の子ども・子育てを取り巻く環境

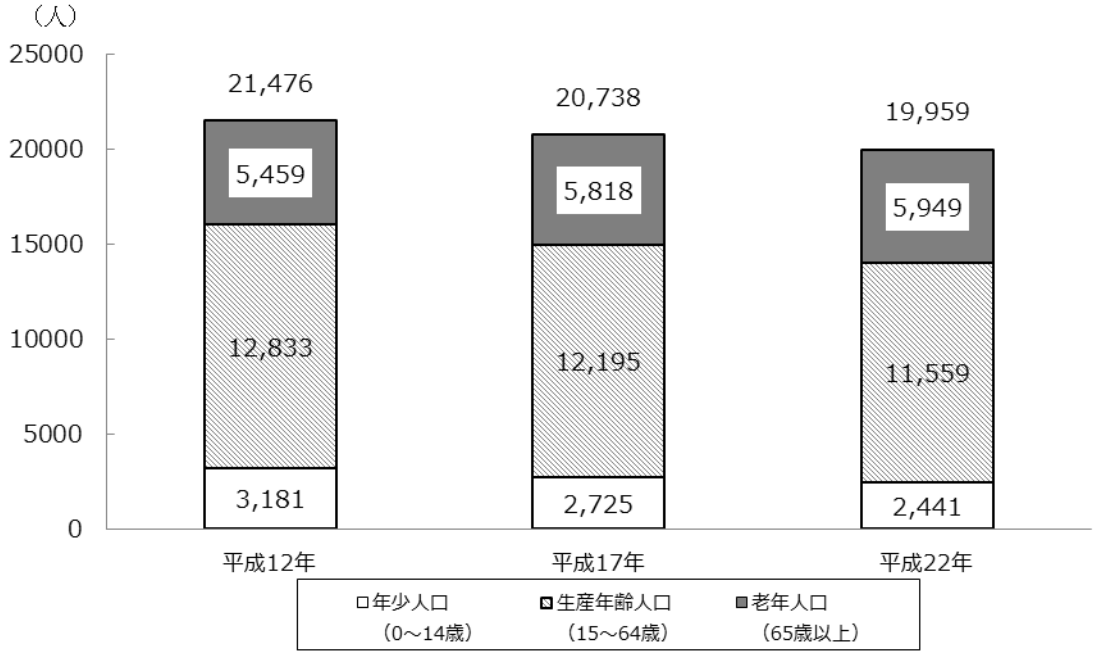
１　人口・世帯・人口動態等

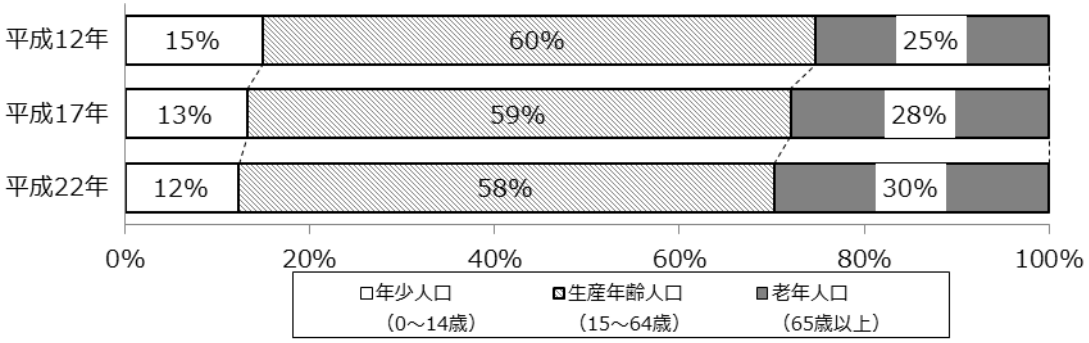
⑴　人口の推移

○　平成１２年以降、減少傾向にあります。

○　年少人口が平成１２年から平成２２年までの１０年間で７４０人減少し、全体に占める割合も３％減少しています。

○　老年人口は平成１２年から平成２２年までの１０年間で４９０人増加し、全体に占める割合は４％増加しており、少子高齢化が進行しています。





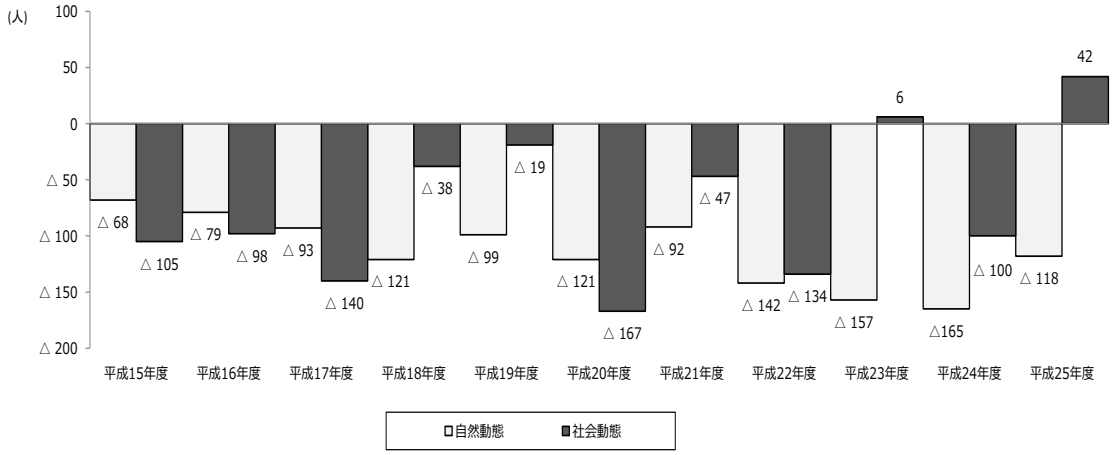
資料：国勢調査（平成１２年　年少人口、生産年齢人口、老年人口不詳３名、
平成２２年　年少人口、生産年齢人口、老年人口不詳１０名）

⑵　自然動態・社会動態

○　自然動態（出生－死亡）は、平成１５年度以降マイナスで推移し、特に平成２２年度以降のマイナス傾向が人口減少を加速させています。

○　社会動態（転入－転出）は、平成２３年度及び平成２５年度には、プラスになっていますが、マイナスで推移しており、人口減少の要因となっています。

■自然動態・社会動態の推移



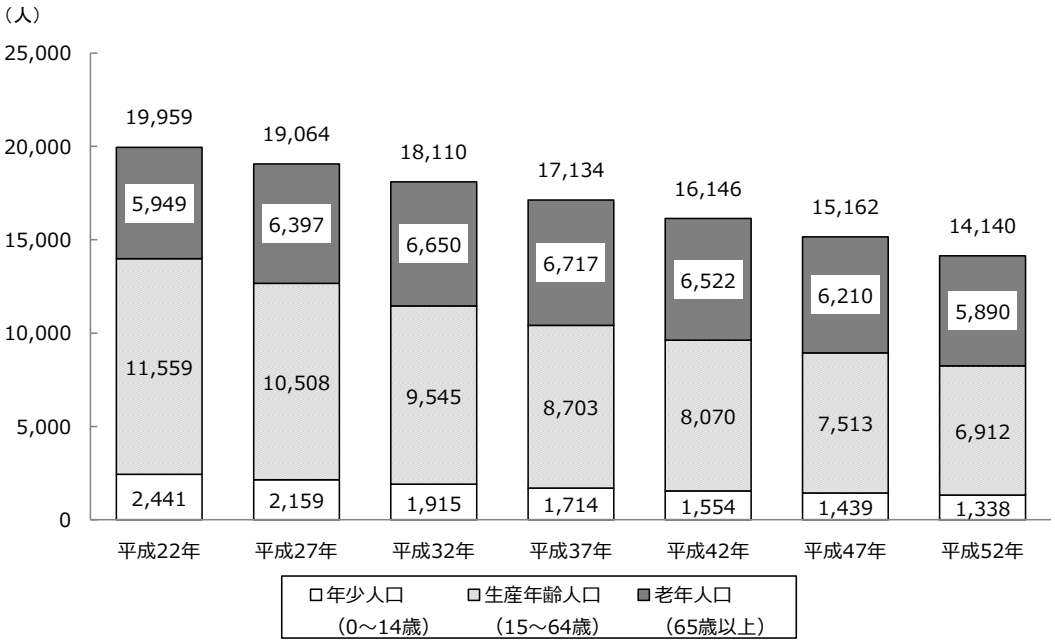
資料：住民基本台帳、町統計資料

⑶　将来の人口推計

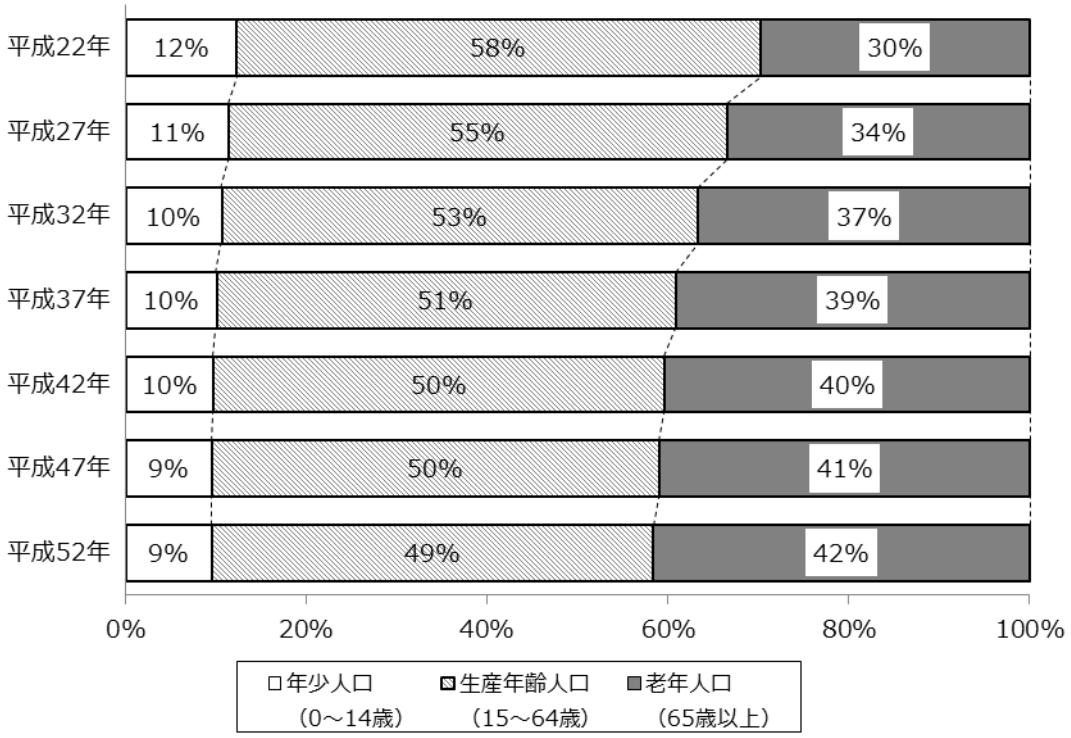
○　平成５２年（２０４０年）には、１５,０００人を下回ると推計されています。

○　年少人口も３０年間で約1,１００人減少すると見込まれ、少子高齢化が進むと推計されています。

■年齢３区分別人口の将来推計（国立社会保障・人口問題研究所）



■年齢３区分別人口の将来推計（国立社会保障・人口問題研究所）



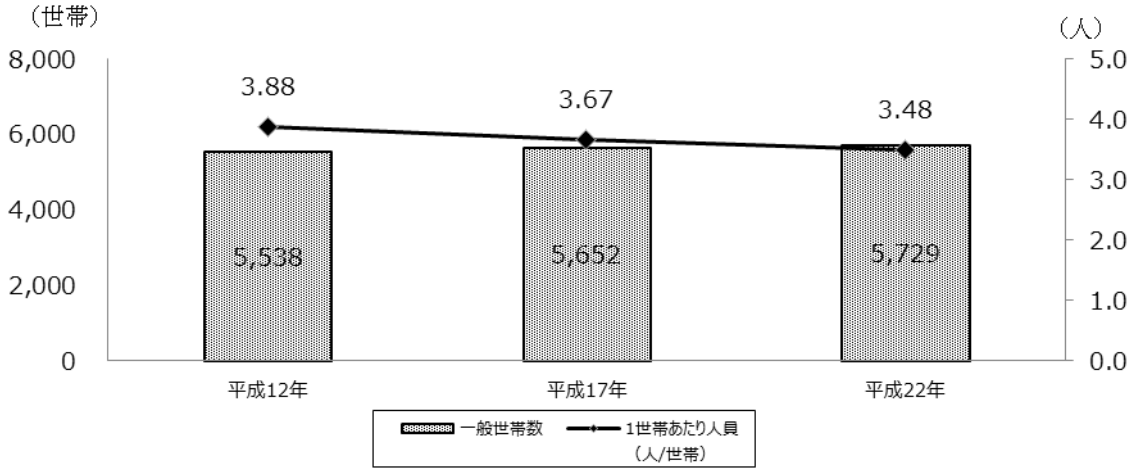
⑷　世帯の状況

○　世帯数は増加しており、平成１２年から１０年間で約１９０世帯増加しています。

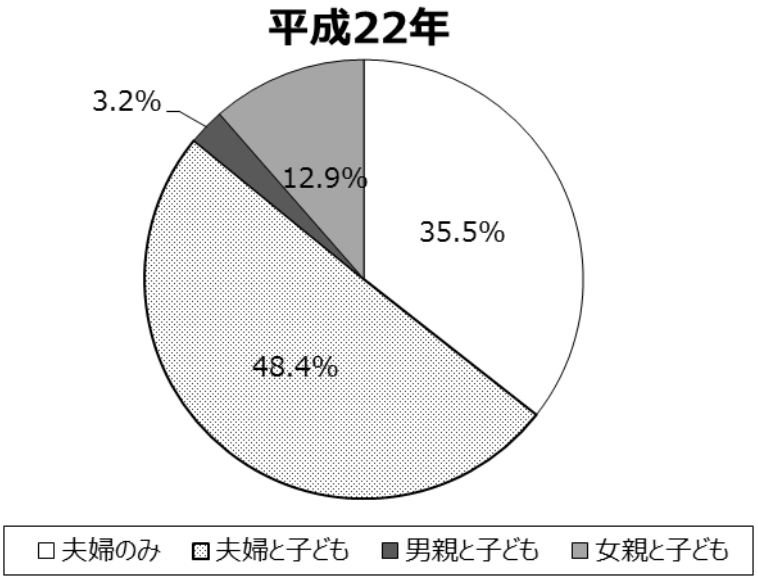
○　１世帯あたり人員は減少し続け、核家族化が進展しています。

○　核家族のうち、平成２２年では、「夫婦と子ども」が４８.４％と最も高く、「夫婦のみ」３５.５％、「女親と子ども」が１２.９％となっています。

■世帯数及び１世帯あたり人員の推移



■核家族世帯の構成比

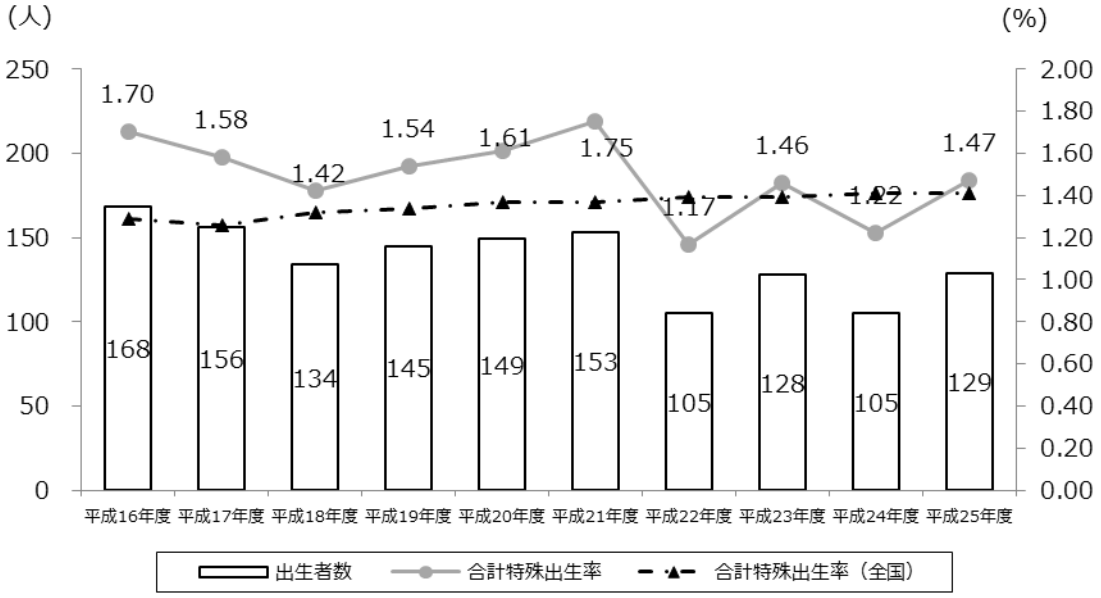


資料：国勢調査

⑸　出生の状況

○　出生数は、平成１６年度から減少傾向にあり、特に平成２２年度以降の落ち込みが目立っています。

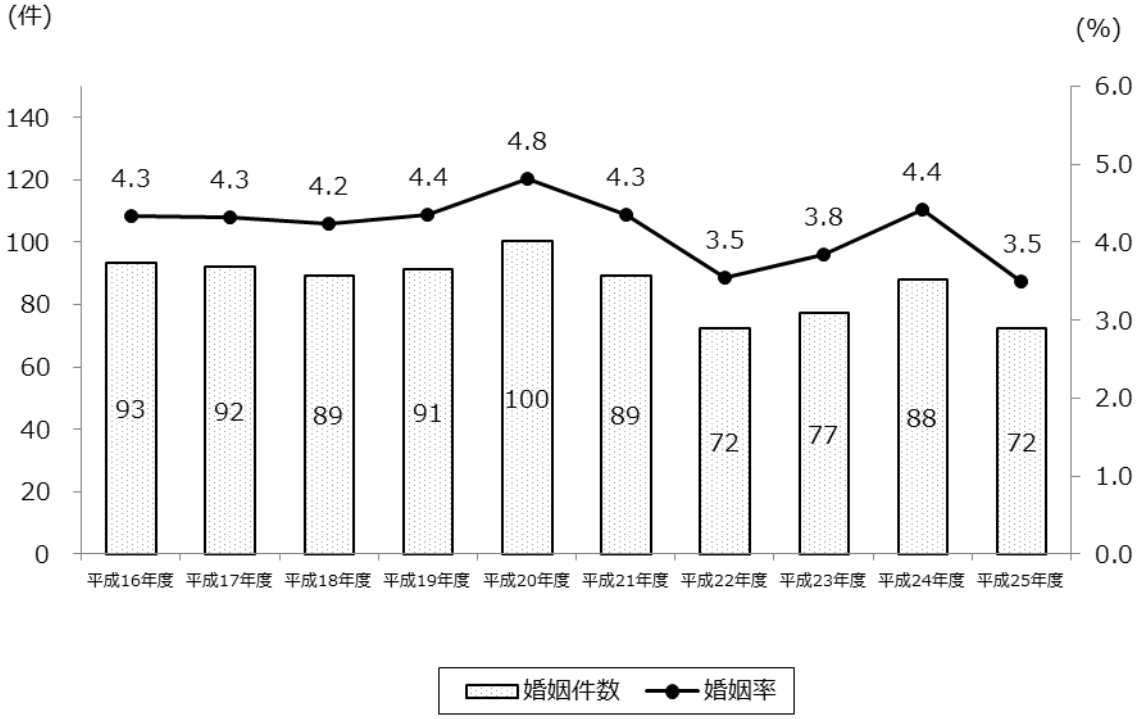
○　合計特殊出生率は、全国の合計特殊出生率をほとんど上回っていますが、出生数が減少している平成２２年度と平成２４年度には下回っています。



資料：住民基本台帳、町統計資料

⑹　婚姻の状況

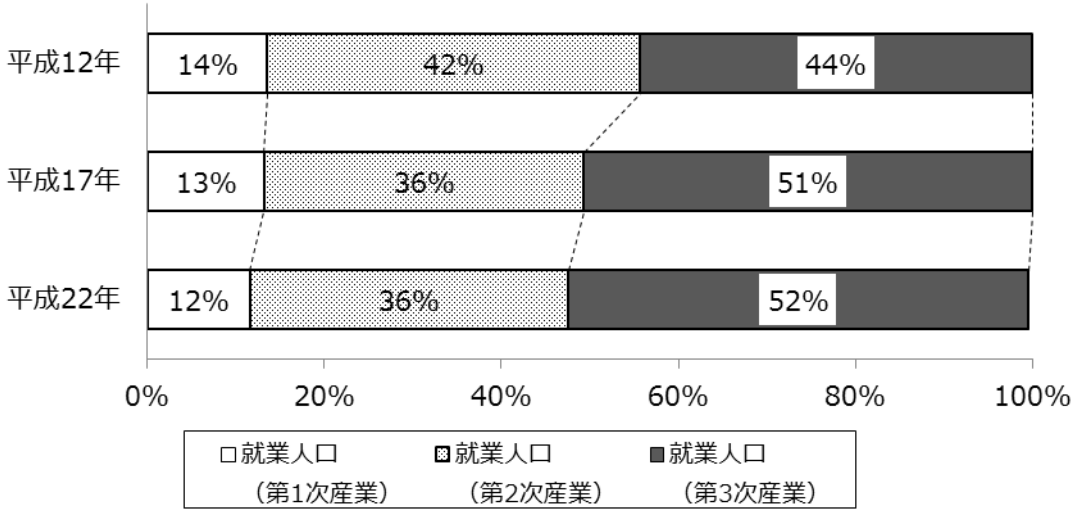
○　婚姻件数は、年度による増減はありますが、おおむね９０件前後で推移しています。



資料：町統計資料

⑺　就労の状況

○　産業別就業人口の比率は１０年間ほぼ同じ構造です。



資料：国勢調査

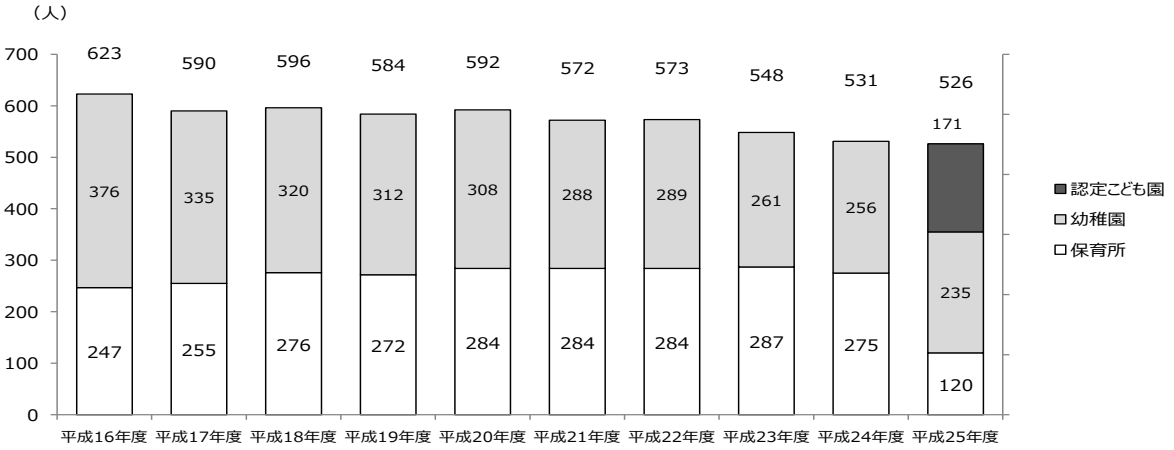
２　教育・保育施設の状況

⑴　利用児童数の推移

○　保育所利用児童数は、平成１８年度以降２８０人前後とほぼ横ばい傾向にあるのに対し、幼稚園利用児童数は、減少傾向にあり、平成１６年度から平成２４年度までの８年間で約１２０人減少しています。

○　全体では、平成１６年度以降減少傾向がみられます。

■保育所、幼稚園の利用児童数の推移

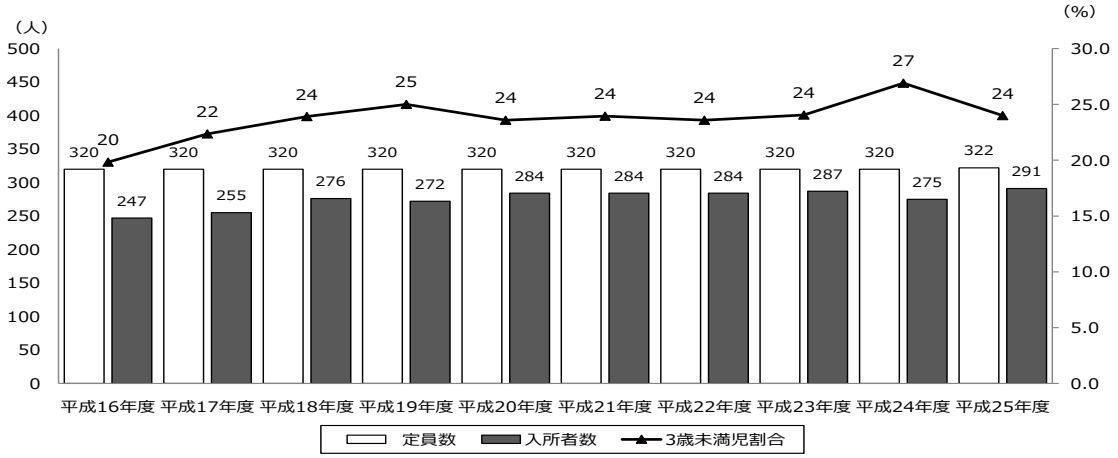


⑵　保育所の利用状況

○　入所者数は、平成１８年度以降おおむね横ばい傾向にあります。

○　３歳未満児の利用割合が平成２４年度には２７％と過去９年間で最も高くなっています。

■保育所の定員数、入所者数、3 歳未満児割合の推移

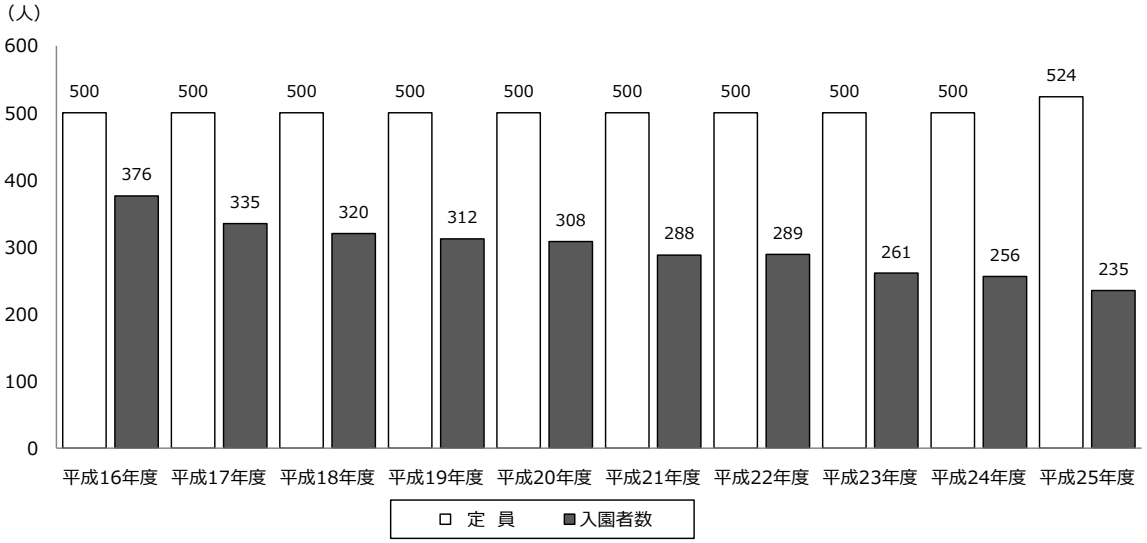


⑶　幼稚園の利用状況

○　利用者数は、平成１６年度以降減少傾向にあります。

○　平成２４年度で利用者数は２５６人と、定員（５００人）に対する利用者の割合は５割程度にとどまっています。

■幼稚園の定員数、利用者数の推移



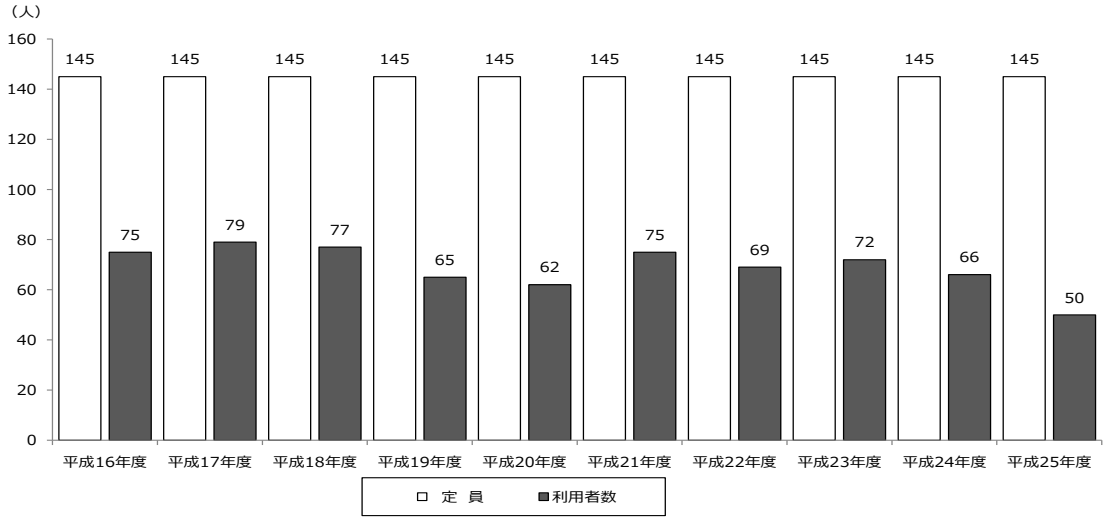
⑷　認可外保育施設の利用状況

○　定員数は、平成１６年度以降１４５人と変化はありません。

○　利用者数は、平成１６年度以降おおむね横ばい傾向にあります。

○　平均利用者数は、約７０人で、定員に対する割合は５割程度にとどまっています。

■認可外保育施設の定員数、利用者数の推移



３　地域子ども・子育て支援事業の状況

子ども・子育て支援事業計画の法定１０事業の実施状況は以下のとおりです。

⑴　延長保育事業（時間外保育・休日保育）

通常の保育時間を超えて延長して保育を行ったり（延長保育）、日曜日・祝日にも保育を行ったりする（休日保育）サービス

【延長保育の実施状況】

（平成２５年度実績）

実施施設：３か所（町立北谷地保育所、町立谷地西部保育所、かほくあいこども園）　利用人数：２０８人

【休日保育の実施状況】

（平成２５年度実績）

実施施設：1か所（かほくあいこども園）　利用人数：６人

⑵　放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

日中の留守家庭児童に加え、希望する児童を対象に、放課後等における児童の安全・安心な居場所の確保と遊び・学習・各種体験活動の場を提供するサービス

（平成２５年度実績）　【実施校区】　４校区

【実施か所】　４か所

【登録児童数】　１５７人

⑶　子育て短期支援事業（ショートステイ事業・トワイライトステイ事業）

【ショートステイ事業】

保護者の病気や出産、家族の介護、冠婚葬祭等への出席のため、家庭において児童の養育が困難になった場合、児童養護施設において子どもを一定期間（原則として７日以内）一時的に預かるサービス

（平成２５年度実績）

委託施設：１か所（寒河江学園）

利用人数：２人

【トワイライトステイ事業】

保護者が仕事やその他の理由により平日の夜間又は休日に不在となり、家庭において児童の養育が困難な場合に、児童養護施設において子どもを一時的に預かるサービス

（平成２５年度実績）

委託施設：１か所（寒河江学園）

利用人数：２人

⑷　乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）

生後２か月までの乳幼児がいる家庭を保健師が訪問し、さまざまな不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供を行うとともに、親子の心身の状況や養育環境を把握し、助言などを行うサービス

（平成２５年度実績）

訪問率：９８％

⑸　養育支援訪問事業

児童の養育について支援が必要でありながら、積極的に支援を求められない状況にある家庭に対し、過重な負担がかかる前に、訪問による専門的な指導や育児支援などを行うサービス

（平成２５年度実績）　訪問世帯数：４世帯

⑹　地域子育て支援拠点事業

公共施設や地域の身近な場所で、子育て中の親子の交流・育児相談談などを行うサービス

◆ 総合子育て支援センター（どんがホール内）

（平成２５年度実績）　利用者数：２１，４２０人

◆ 地域子育て支援センター（かほくあい子育てセンター内）

（平成２５年度実績）　利用者数：１１，３２４人

◆ 親子でほっとひといき広場

（平成２５年度実績）　利用者数：３，９８６人

⑺　一時預かり事業

保護者の就労や求職活動、病気やけが、出産、介護、冠婚葬祭、リフレッシュ等により一時的に家庭での保育が困難な場合に、子どもを預けることができるサービス

（平成２５年度実績）

利用人数：１，０６６人

⑻　病後児保育事業

病気やけがの回復期にある乳幼児（病後児）を専用の保育室で看護師・保育士が預かるサービス

病後児保育施設すくすく

（平成２５年度実績）

登録者数：１２４人

利用者数：延べ１４人

⑼　ファミリー・サポート・センター事業

子育ての手助けがほしい人（依頼会員）、子育てのお手伝いをしたい人（提供会員）、両方を兼ねる人（両方会員）に会員登録をしていただき、子育てのサポートを提供する相互援助活動を行うサービス

（平成２５年度実績）

依頼会員：１１３人、提供会員：７６人、両方会員：２１人

利用件数：２６件

⑽　妊婦健康診査

妊娠中の母親の健康状態やおなかの赤ちゃんの発育状況などを定期的に確認するため、健康診査１４回を公費負担するサービス

（平成２５年度実績）

利用人数：延べ１，４４０人

４　子ども・子育て支援ニーズ調査の結果概要

○　調査対象：河北町在住の就学前児童及び小学生がいる家庭の保護者

○　調査期間：平成２５年１１月２８日～１２月１２日

○　調査方法：・就学前児童…町立幼稚園、町立保育所及び認定こども園に通われているお子さん分は各園（所）を通じて配付・回収。それ以外は郵送方式

・小学生 ……小学校を通じ、配付・回収

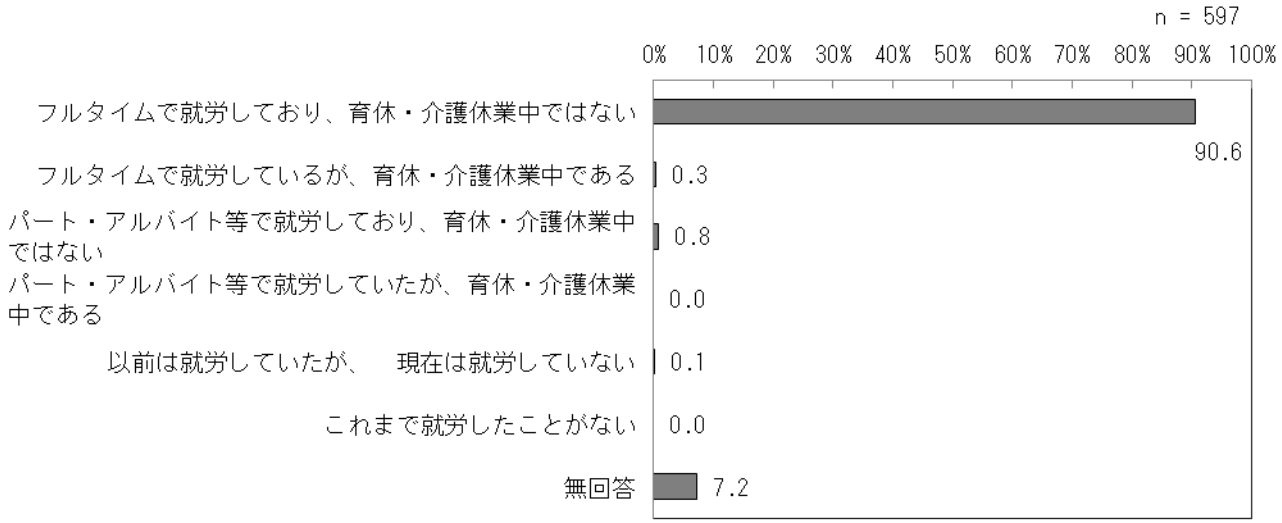
○　配付・回収：

区分	配付数	回収数	回収率
就学前児童	８８５票	５９９票	６７．７％
小学生	９８７票	８０９票	８２．０％

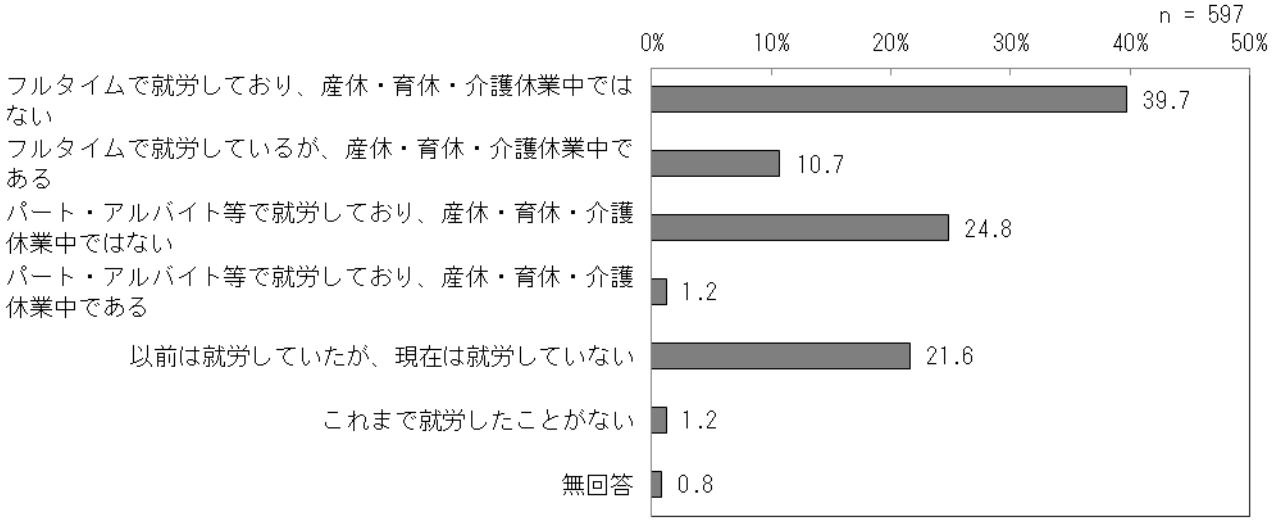
⑴　保護者の就労状況

父親の就労は「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が９０．６％で大多数を占めています。母親の就労状況は、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が３９．７％で最も多く、次が「パート・アルバイトなどで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」で２４．８％、「以前は就労していたが、今は就労していない」が２１．６％などとなっています。

○　父親の就労状況

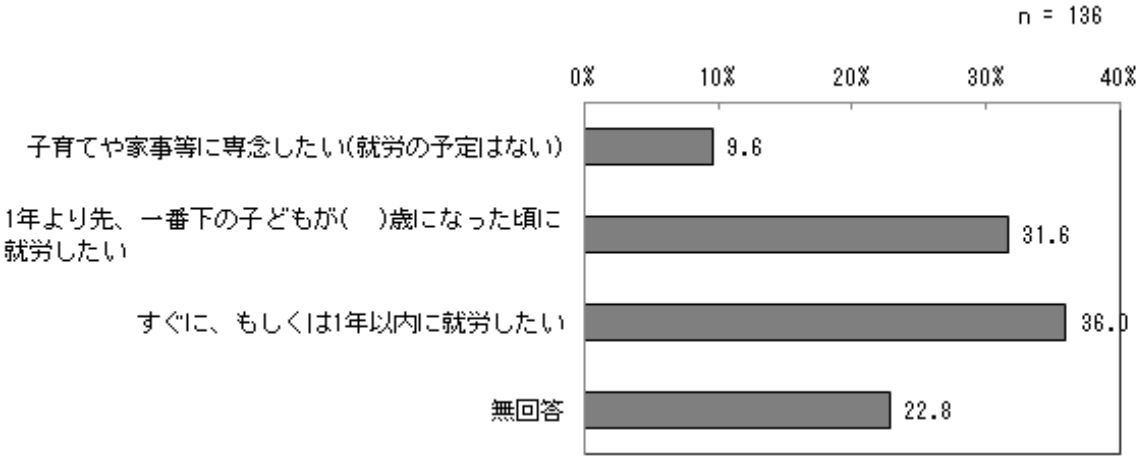


○ 母親の就労状況（自営業・家事従業者含む）



○現在就労していない人の今後の就労意向

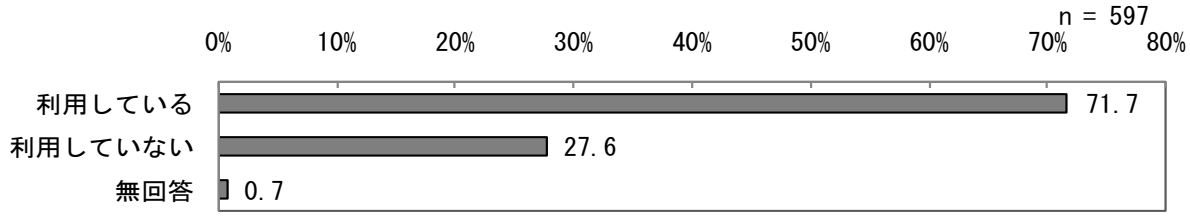
母親の就労意向は「すぐに、もしくは１年以内に就労したい」が３６．０％で最も多く、次が「１年より先、一番下の子どもが(　)歳になった頃に就労したい」で３１．６％などとなっています。



⑵　教育・保育事業の利用について

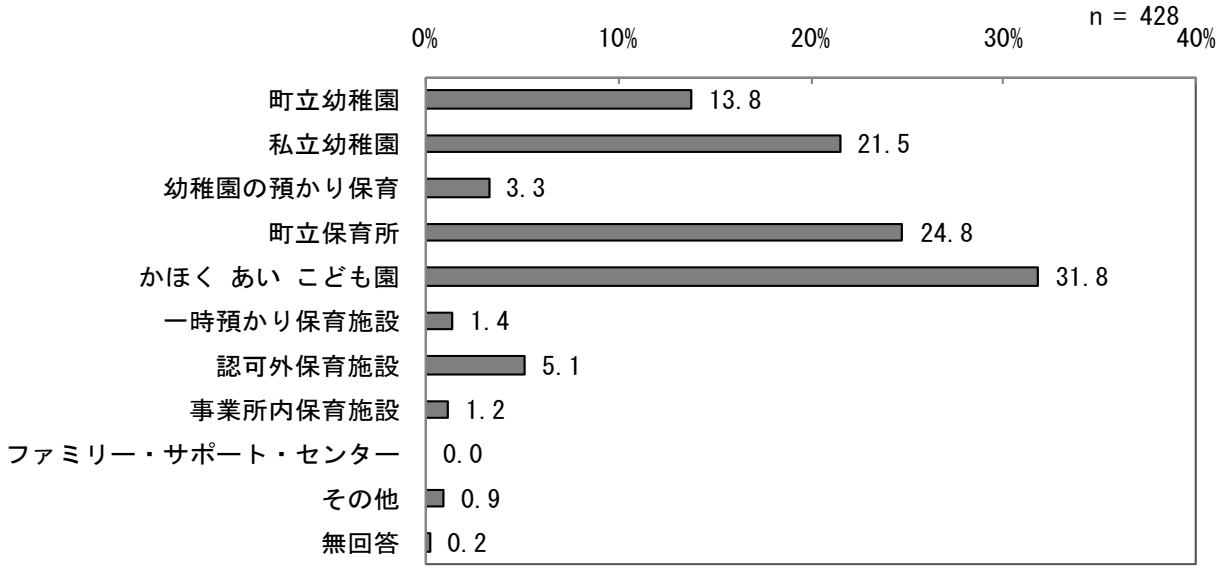
○平日の定期的な教育・保育事業（幼稚園、保育所など）の利用状況

定期的な教育保育事業の利用状況は、「利用している」が７１．７％、「利用していない」が２７．６％となっています。



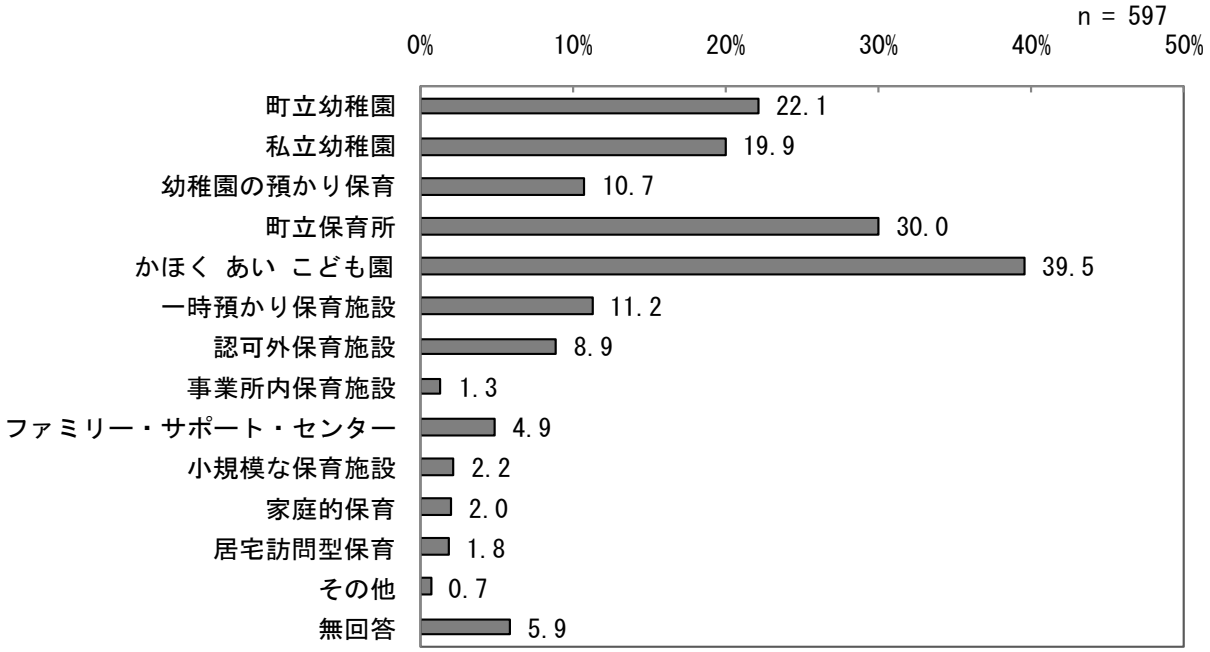
○利用している教育・保育事業

定期的に利用しているのは、「かほく　あい　こども園」が３１．８％で最も多く、次が「町立保育所」で２４．８％、「私立幼稚園」が２１．５％、「町立幼稚園」が１３．８％などとなっています。



○今後、利用したい教育・保育事業

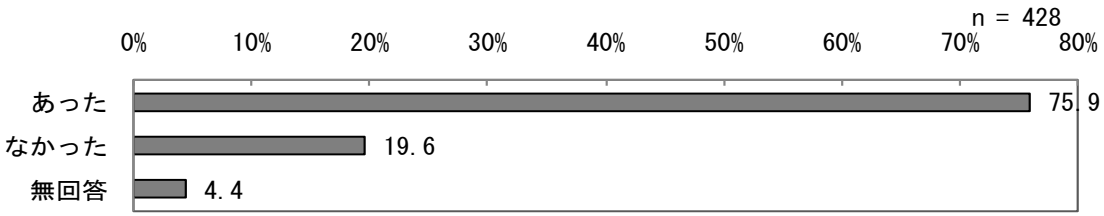
今後、定期的に利用したいのは、「かほく あい こども園」が３９．５％で最も多く、次が「町立保育所」で３０．０％、「町立幼稚園」が２２．１％、「私立幼稚園」が１９．９％などとなっています。



⑶　子どもが病気やケガのときの対応について

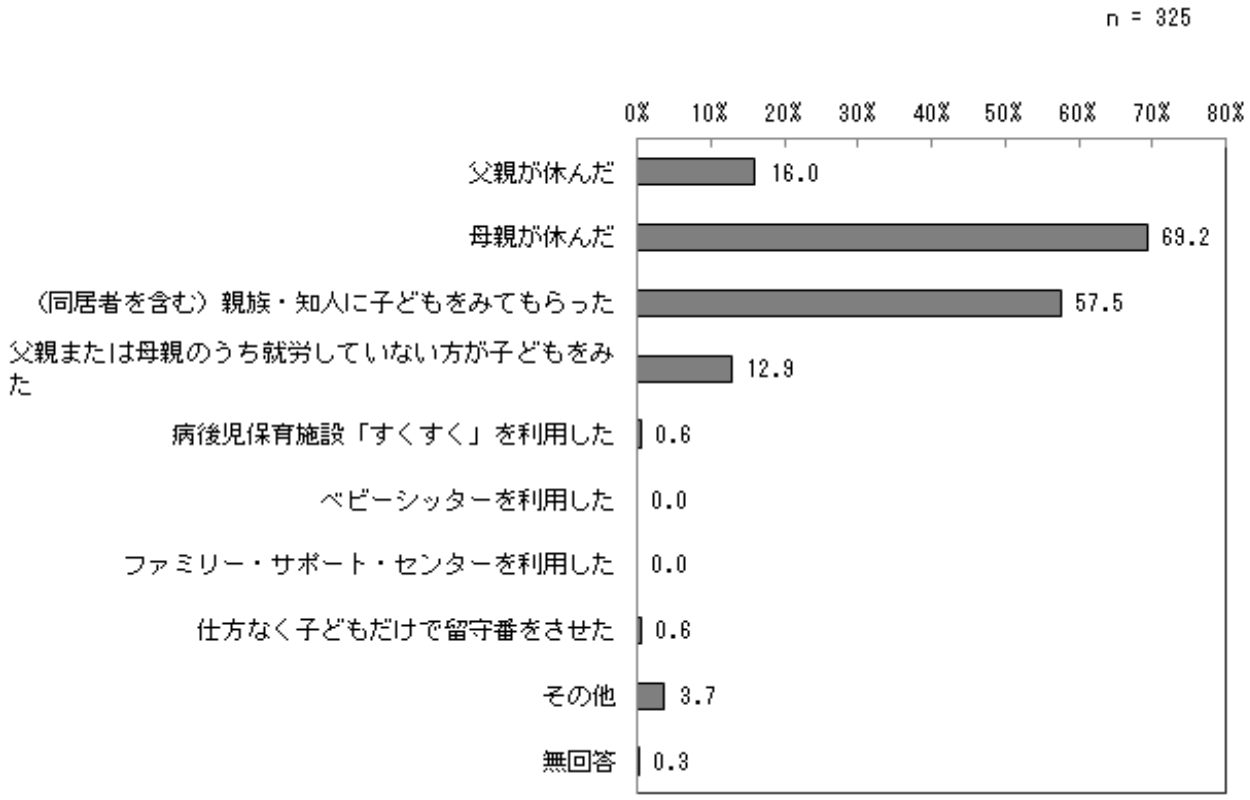
○子どもが病気やケガで教育・保育施設を利用できなかった経験

利用できなかったことの有無は「あった」が７５．９％、「なかった」が１９．６％となっています。



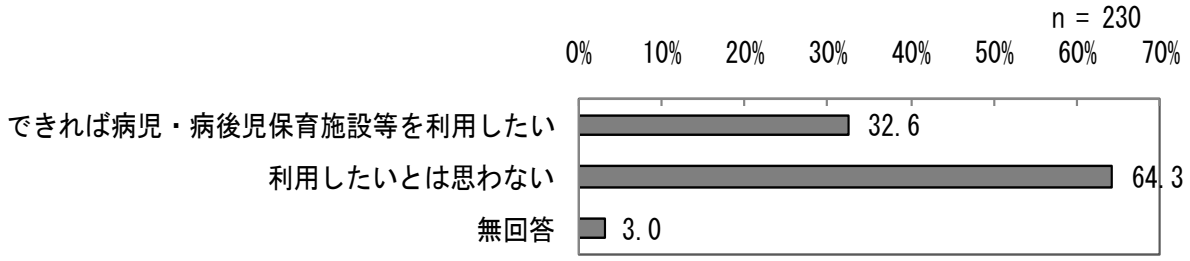
○そのときの対応

そのときの対応は「母親が休んだ」が６９．２％で最も多く、次が「親族・知人に子どもをみてもらった」で５７．５％、「父親が休んだ」が１６．０％などとなっています。



○病児・病後児保育の利用意向

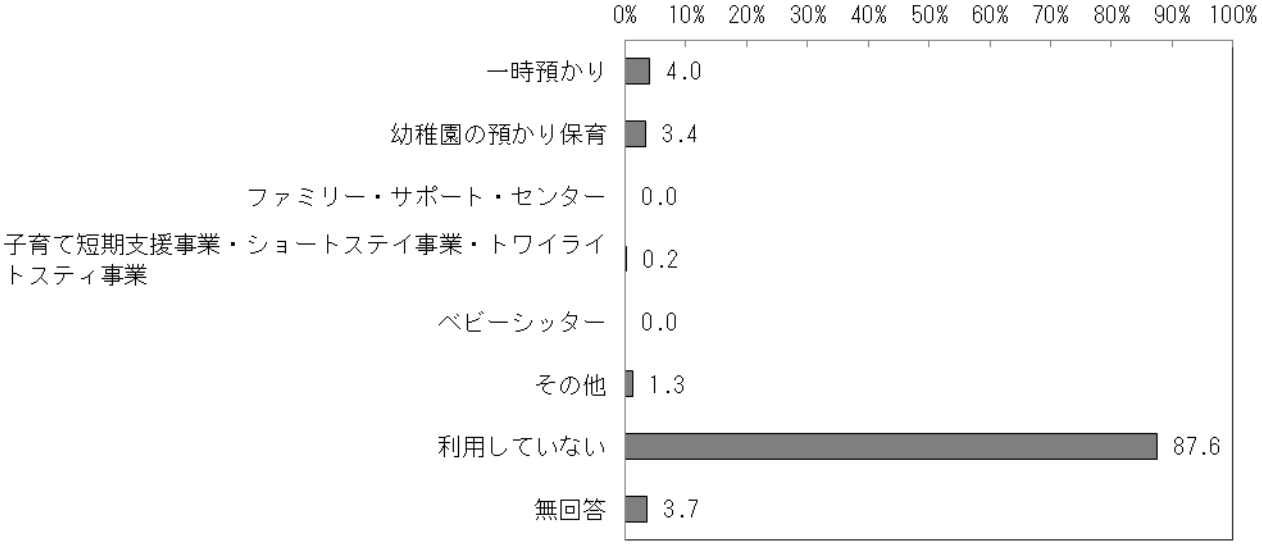
「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が３２．６％、「利用したいとは思わない」が６４．３％となっています。



⑷　不定期の教育・保育事業の利用について

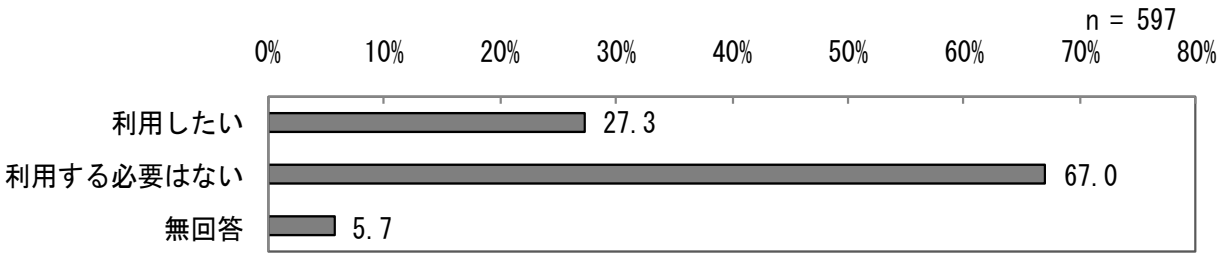
○私用や親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業

「利用していない」が８７．６％で多数を占めます。利用している事業は「一時預かり」が４．０％、「幼稚園の預かり保育」が３．４％などとなっています。



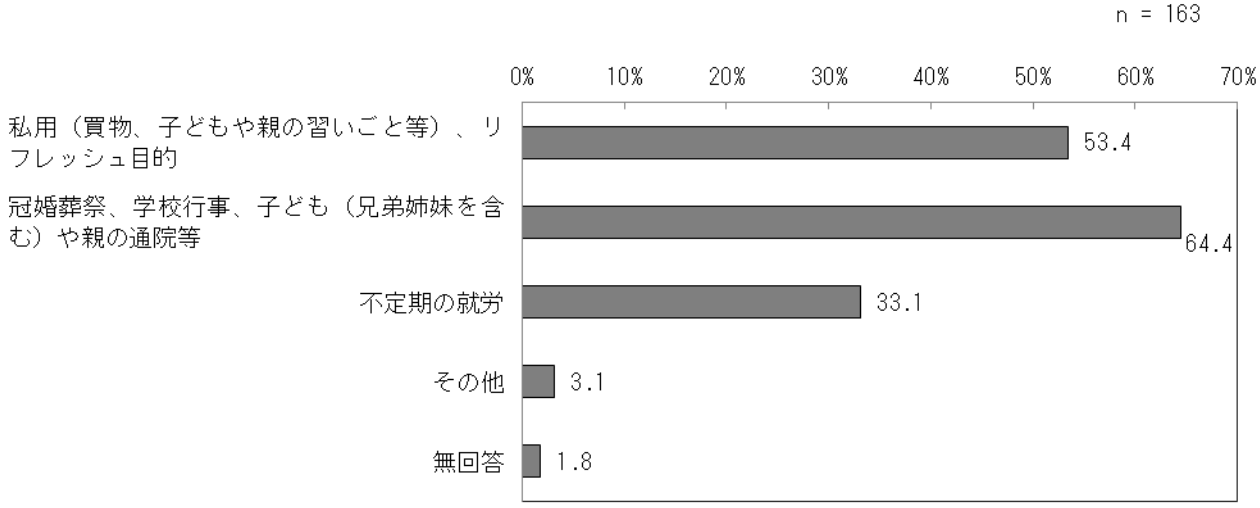
○今後の不定期な事業の利用意向

「利用する必要はない」が６７．０％、「利用したい」が２７．３％となっています。



○事業を利用したい目的

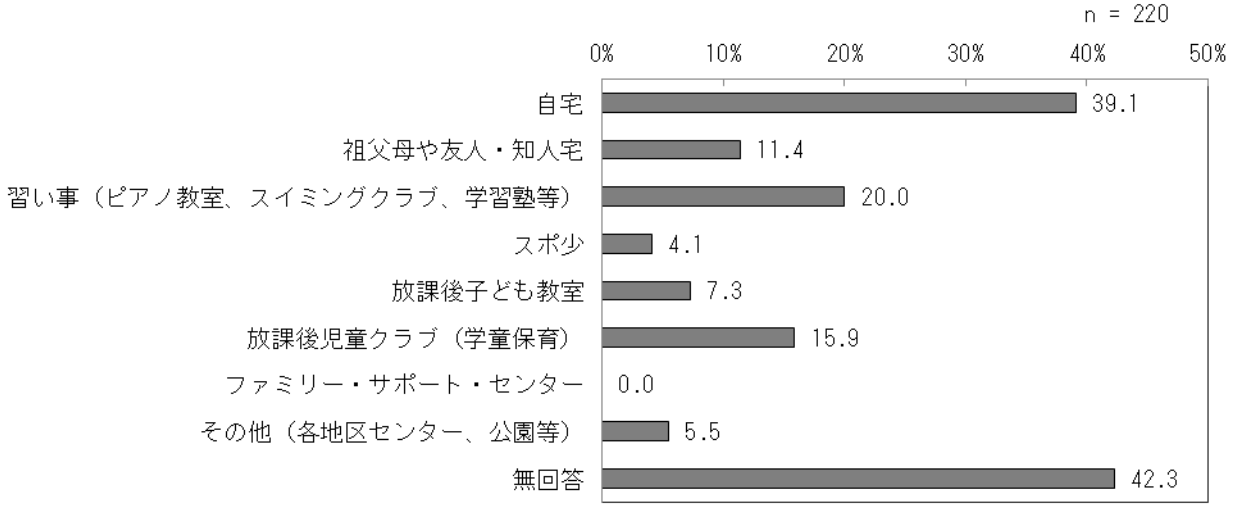
利用を希望する目的は「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が６４．４％で最も多く、次が「私用(買物、子どもや親の習いごと等)、リフレッシュ目的」で５３．４％、「不定期の就労」が３３．１％となっています。



⑸　小学校就学後の放課後の過ごし方

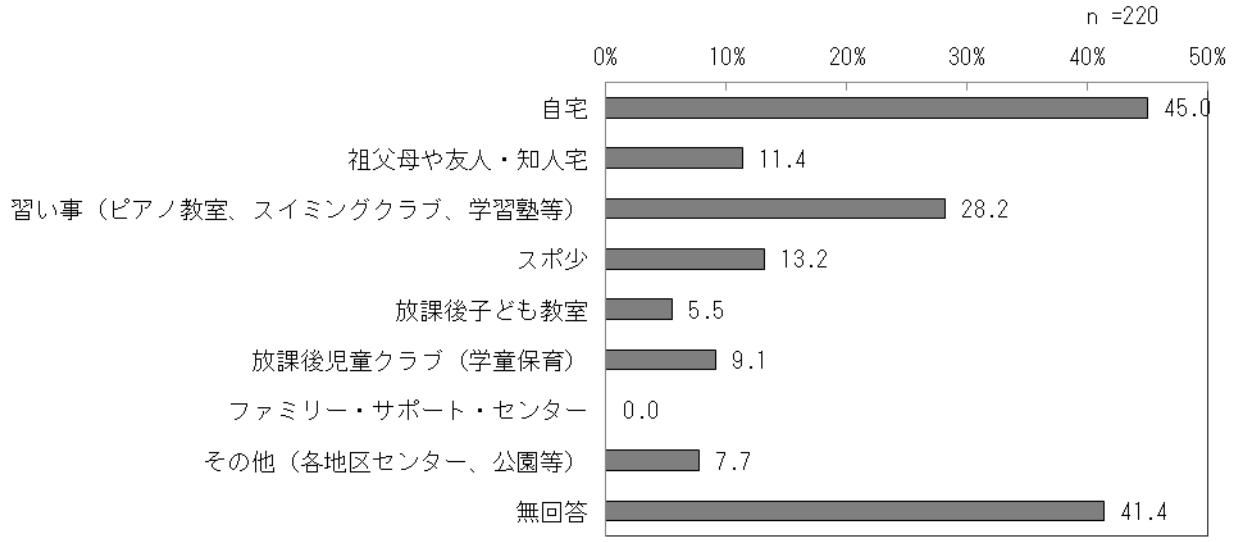
○低学年のうちに過ごさせたい場所

低学年の放課後を過ごさせたい場所として「自宅」が３９．１％で最も多く、次が「習い事」で２０．０％、「放課後児童クラブ」が１５．９％などとなっています。



○高学年になったら過ごさせたい場所

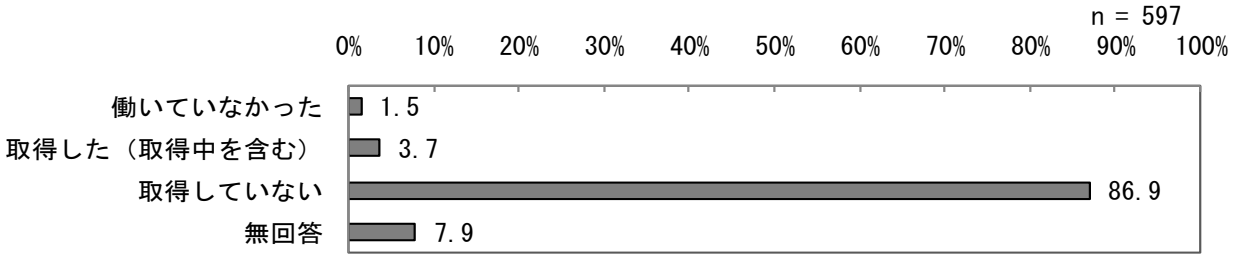
高学年の放課後を過ごさせたい場所として「自宅」が４５．０％で最も多く、次が「習い事」で２８．２％、「スポ少」が１３．２％などとなっています。



⑹　育児休業の取得状況

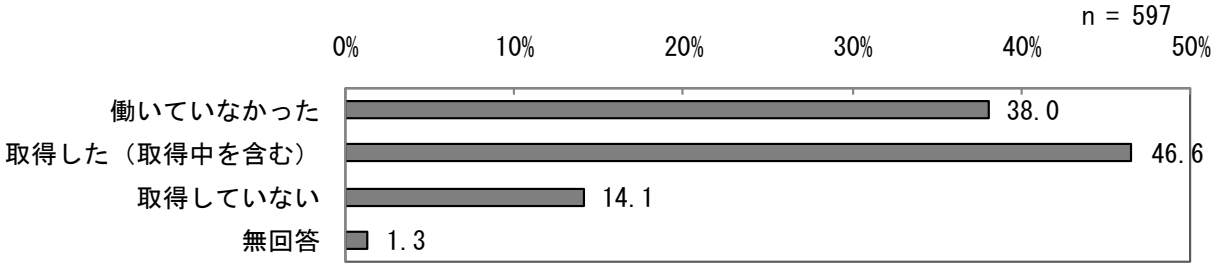
○父親の取得

父親は「取得していない」が８６．９％で大多数となっています。「取得した」が３．７％、「働いていなかった」が１．５％となっています。



○母親の取得

母親は「取得した」が４６．６％、「働いていなかった」が３８．０％、「取得していない」が１４．１％となっています。



5　本町における子ども・子育て支援の課題

子ども・子育て支援ニーズ調査や事業者アンケートなどから次のような課題が浮かび上がりました。

⑴　核家族化の進展や地域のつながりの希薄化により、祖父母や近隣の住民等から、日々の子育てに対する助言、支援や協力を得ることが困難な状況となっています。

⑵　現在の親世代の人々の兄弟姉妹の数が減少しており、自身の子どもができるまで赤ちゃんと触れ合う経験が乏しいまま親になることが増えています。

⑶　経済状況や企業経営を取り巻く環境が依然として厳しい中、共働き家庭が増加し続けているとともに、若年男性をはじめ、非正規雇用割合も高まっています。

⑷　子育てに専念することを希望して退職する者がいる一方、就労の継続を希望しながらも、仕事と子育ての両立が困難であるとの理由により、出産を機に退職する女性が少なからず存在しています。

⑸　少子化により、子どもの数の減少とともに兄弟姉妹の数も減少しており、乳幼児期に異年齢の中で育つ機会が減少しています。

■アンケート結果からの意見

◆ 保育所や認定こども園などに対して

○　０歳児の町立の保育所があったらいいと思う。子どもが５月生まれなので、２歳近くらないと町立の保育所に入所できなく、ベビーホームだと費用が高くなかなか預けられないのが現状です。

○　認可保育施設で０歳児保育がないというのは河北町だけだと思います。育児休暇が取れるのは公務員や大手企業だけ。子育て支援をするなら、早くに０歳時保育の受け入れ施設を作ってほしいと思います。

○　認定こども園は働く保護者にとって助かるが、保育士の増加をして手厚く保育してほしいと思います。

○　平成２８年度から始まる認定こども園について、今通っている保育所、幼稚園よりも保育料が高くならないように設定してほしい。今、溝延地区に住んでいますが、今の幼稚園は家も近く歩いて行けます。保育料も負担に感じない料金なのでとても助かっています。町が、今の幼稚園をなくす考えならば、今まで以上の負担がないような料金設定・送迎などしていただけるようお願いしたい。

◆ 病児・病後児保育について

○　病児・病後児保育の内容の見直しをしていただきたい。利用したことはありませんが、一定期間（急性期）を過ぎた子どもだけが預けられることができて、保育中に熱が出たりして保護者が迎えにいくまでの時間ですら受け入れてくれないとなると利用する時はないのではないか？と思います。

○　病後児保育を利用したいと思っていますが、日曜日はしていなかったので預けることができず困ったことがありました。日曜日に仕事をしている親は少なくないと思うので、日曜日が休みでは保育所などと変わらないのでは？日曜日にもそういったサービスがあればうれしいのですが。

◆ 予防接種などについて

○　インフルエンザなどのワクチン接種への補助があると助かります。

◆ 医療の充実について

○　休日、夜間の診療体制などの医療関係を充実していただければ、子育てしやすい環境になるかと思います。

○　河北病院の小児科で緊急時の対応をしてほしい。夜間も。小児科の先生が減って子どもは増えない。町内に、産婦人科がないのも問題で、出産も安心してできない状況です。

◆ 障がい児について

○　障がいのある子どもが対象のサービスがあまりなってないと思う。学童施設や長期間休みの場合に利用できる所があれば仕事もしやすいのですが。

○　障がい児や親が集まって交流する場などの専門の機関がほしいと思います。

◆ 公共施設などについて

○　交通量がやや多いのに、子どもたちが安心して通る歩道がなく、とても危険。遊具のある公園や広場がなく、みんなが集まって遊ぶ所がない現状です。

○　地区の道路が狭い所も多く、主要道路の歩道も所々歩きにくい箇所もあります。安全に安心して歩ける道路の整備をお願いします。溝延地区にもう少し公園（遊具）があればよいと思う。小学校・幼稚園（？）本丸公園くらいしかない。子どもが体を動かして遊べる場をつくってほしいと思います。

◆ 学童保育について

○　地区ごとの学童保育の充実。学区外に行けなければならないのは、たいへん負担に思う。小・中学生にも優しい支援があればいいと思います。

○　学童保育所が荒れていると聞き、必要とするのですが、なかなか踏み切れない。あのスペースに人数が多すぎ、保育士なども足りていないのではないか？早急に学童保育所を増やして欲しいと思います。

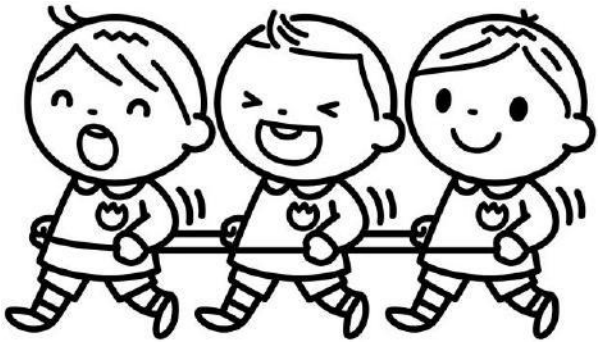
○　放課後児童クラブの費用が他の地域から比べると高いと思います。

◆ その他

○　将来の高校への交通手段に不安を感じます。登下校に合わせた時間帯に駅までなど町営バスがあれば良いのですが。中学校も冬期間、スクールバスを出して欲しい。長い目での子育て支援をお願いしたいと思います。

○　核家族が増えている中、子育てに不安を抱いている親がとても多いので、子育て支援センターの充実（相談できる身近な施設）をお願いしたい。また、学校教育の前に幼児教育の方に力を注いでいただきたい。特色をだした学校づくりが打ち出されているため、町内６つの小学校の内容にムラがあるようにも思う。町で一貫したものをしっかりと出してほしいと思います。

○　災害時の教育を学校でだけでなく、家で留守をしている時や、町全体でしてほしい。今不安な事は、親が守れない場所にいる場合、子どもが自分で判断をして行動できるか、また直下型の地震が起きた時どういうことが河北町の土地では起こり得て、どんな行動を取れば良いのか、という災害時の対応。以前災害マップをいただきましたが、それだけでは不安が残り、町全体又は地区レベルでの訓練もくり返し必要だと思います。

○　祖父母学級のような行事、食文化の教室や伝統食づくり、わらじ作りなどの手間をかけて何かを作ったりする昔の知恵等を受け継いで行ってほしい。また、学校での生活や道徳の時間に取りいれてほしいと思います。

○　子どもの発達に関して相談にのってくれたり、指導してくれたり、専門機関を紹介してくれたりするが、その専門機関が町になく、遠い所だったり、なかなか予約がとれないところだったりします。近くにそういう専門機関があったり、専門の指導員（診断したり、発達検査ができる人など）等が常にいるなどの場所があったりすると良いと思います。